NVC Monthly

寝屋川映像同好会会報
第２８号（２０１１０９０２）
発行　竹 田 幸 男

同好会ニュース

■　９月例会開催

今月は寝屋川まつり、撮影会、映像フェスティバル、忘年会等、映像寝屋川との協働が必要な議題が多く、映像協会としての活動が本格的に動き出しました。また１１月の第５回ビデオ作品発表会に向けての準備の議題も多く、忙しい例会となりました。

同好会ニュース

■　平成２３年９月例会

日　時　平成２３年９月２日（金）
　　１３：３０～１６：３０
場　所　寝屋川市民活動センター
　　４階　こども部屋

出席者　新井　天野　石田　小笠原　佐伯　竹下　竹田　谷　田渕（9名）
　　欠席者（３名）（５０音別　敬称略）

例会次第

１．報告・連絡・協議事項

（１）寝屋川まつり撮影報告
・当会からは、竹田さん、新井さん、天野さんが担当された。
・雨が降るなど大変だったが、無事撮影できた。

（２）撮影会プロジェクトチーム（天野さん、小笠原さん）
・鉄具さんからメールがあり、同好会からの提案を受けて、映像寝屋川は検討するとのこと。
・前月例会での提案通り、風物だけでなく人物が絡むものを検討したうえで、同好会から映像寝屋川に提案し打ち合わせる。
・次回例会までに素案を映像寝屋川に提案し、メールで打ち合わせる。
・実施時期は、１～２月頃を考える。１１月までは何かと忙しい。

（３）忘年会プロジェクトに関して（石田さん）
・映像寝屋川チームと打ち合わせた結果、従来の方法は手間がかかりすぎることから、松心会館で実施することに決定。
・日時は、１２月３日（土）１２時～１４時
・カラオケルームは予約出来なかった。喫茶を検討してはどうか？
・１０月の例会までに、詳細を詰め報告する。

（４）当同好会の新年会は「食事会」とする。
・例会を１３時～１５時とし、昼食メニューで実施する。
・場所等詳細は、石田さん担当。

（５）来年の映像フェスティバルの実施日
・６月１日（金）で決定。アルカスに申し込みをする。

（６）第５回ビデオ作品発表会の件
・１１月２６日（土）午前の部　１０時～　午後の部　１３時３０分～。
・９月例会では、出品候補作品の映写。
・１０月例会では、出品候補作品の最終映写、最終打ち合わせを終える。
・１１月例会では、出品作品完結版を各自提出。発表会実施要領の最終打ち

合わせ。
・１１月松愛会会報へのＰＲ原稿（田渕さん）
・プログラムは１０月末完成、会員は遅くとも１１月例会でＰＲ用として受け取る。
・打ち上げ会（田渕さん）

（７）にぎわいフェスタ（第６１回寝屋川市民文化祭）映像発表会
・日時　　１１月４日（金）午後２時～
・場所　　アルカス・大ホール
・出品締切　　９月例会時＜市の締め切りは　９月２０日（火）＞
・出品者　　新井、天野、小笠原、竹田さんは決定。他の人は検討中。
（補足:１０／２５に映像寝屋川会員の出品が揃うので、それまでに竹田まで届けてほしい。）
・居住地に関係なく「寝屋川市映像協会会員」として参加する。

（８）映像寝屋川との合同例会
・日時　　９月２５日（日）１３時～
・場所　　寝屋川市立総合センター
・その他　映像寝屋川役員会を１０時～
　　寝屋川市映像協会役員会　１１時～

（９）寝屋川市文化連盟会員研修会参加募集案内、参加なし（竹田さん）

（１０）「NVC　Monthly」の記事執筆者の件。
・次回担当　梶本さん。竹田さんがメールで執筆依頼、無理な場合は佐伯さん。

２．作品発表
①「大阪市平野区　博物館を訪ねて」新井さん　８分４６秒。
・作品の流れはスムーズで良い。
・音量のバランスが悪いところがある。
・撮影者の感じたこと、訴えたいことをナレーションで補っては。
・質問に対する匠の返答をテキストでも補ってはどうか。

②「宇治川の鵜飼　女性の匠と鵜が織りなすミニクラス会」新井さん　１０分１７秒。
・鵜飼いの情景はうまく撮影されている。
・鵜飼の説明をナレーションで補足すると引き締まる。
・鵜飼いを見る観客の横顔や鵜飼に驚く声を入れるといいのではないか。
・テキスト説明が長いところは、ナレーションに置き換えては？

・トランジションから次の画面に移るのに忙しいところがある。
・同級生の場面を少し少なめにする方が良い。

③「錦秋慕情」　　小笠原さん　５分４８秒
・秋をうまく表現されている。静止画的動画といえる。
・タイトルの色は、赤ではなく別の色の方が良い。
・「おわり」の字体を勘亭流から別のものにした方が良い。勘亭流は遊びの字体、このような作品には似合わない。
・ススキで終わり、カットを少し減らした方が良い。
・最後の落ち葉のカットは、少し暗いとよいのだが…。

④「ウグイス巣立ちの頃」　　谷さん　５分１２秒
・映像寝屋川との合同例会に提出する作品。
・ナレーション、内容ともに素晴らしい。

⑤「人生の扉」　　天野さん　７分３６秒
・前回発表作品の修正版。
・「歌詞は独自解釈」は省いた方が良い。
・テロップの赤はきつ過ぎる。映像寝屋川との合同例会出品作品。

⑥「雨のハイキングと高山植物」　　天野さん　７分４２秒
・前回発表作品の修正版
・テロップの赤は別の色にした方が良い。
・花のカットが多いので、地面が映っているもの、揺れているものなど省いては。
・ＢＧＭとナレーションが作品を引き立てている。発表会出品予定。

⑦「フィレンツェ追想」　　竹下さん
・静止画を加工して動画的に工夫されている。まだ試作段階、これから作品に練り上げていきたい。発表会出品予定。

⑧「古町のひな祭り」　　竹田さん　　９分５８秒
・昨年の撮影会作品。試作段階、これから作品として磨きをかける。発表会出品予定。

４．次回、次々回例会
・１０月７日（金）　１３：３０～
・１１月１０日（木）１３：３０～　（１１月４日は賑わいフェスタのため避け、１１日は会場がふさがっていた。）
・於：寝屋川市市民活動センター　４階　こども部屋。
・１０月例会　カメラ担当：小笠原さん。

うちの猫たち

佐伯節子

先日、飼い猫の「チチ」が死んだ。１５歳だった。

我が家に来たのは７年前。娘夫婦に持て余されて我が家に引き取ったのだが、捨てられたと理解しているのか、彼女らが来ると隠れて姿を見せない。見た目はとても精悍なオスの黒猫。実際は甘えん坊のへたれなでぶ猫。怒られるとわざわざすり寄って愛想する。鳴き声も多種使い分け、おしゃべり上手だった。人間と常に密着しているせいか、ある程度言葉を理解しているようだ。

今の家に引っ越しする時、下の娘が「壁で爪とぎしたら捨てるぞ！」と重々言い聞かせ（おどし？）たら、トイレも爪とぎも全く問題なく新居に溶け込み、驚いた。

猫を飼うのは５匹目だが、それぞれ個性があり面白い。最初の猫は借家住まいのとき。床下に住み着いた猫に見込まれたようだ。すぐに出産。もともと飼い猫だったと見えて、とても利口な親猫だった。尊敬の意味で名前は「親猫さん」。子猫のしつけもちゃんとやって、猫を飼ったことのない私は感心して眺めていた。

だが、ペット禁止だったので、大家が来るたびおたおたと隠しまわった。子猫が大きくなるにつれてそれも困難になり、泣く泣く親子ともども段ボールに入れて遠くの公園に捨てた・・・ごめんなさい。

３匹のうち、野生では生きられそうにないひ弱そうな「タイツ」だけは残した。娘二人が小学生からカギっ子だったので、学校から帰った時に猫に迎えてもらえたのはせめてもの慰めだったか。私の気休めだったか。なかなかの美猫で娘には従順。私は「困った時のおばさん」。代々このパターンを受け継ぐ。「タイツ」は夜、交通事故？にあったらしくどうにか帰宅はしたが何日後かに亡くなった。動物病院で安楽死を勧められたが、娘らが反対したのでずっと見守っていた。最期を看取ったのは小学生の娘二人。私は外出中だった。可哀そうなことをした。

「もう飼わない」と言っていたのに、姪から「子猫貰って欲しい」といわれて断り切れずに飼ったのが「ごん」と「もも」の兄妹。

彼らも其々性格が違って面白かった。賢い兄は、時々猫パンチでおバカな妹をたしなめていた。猫餌もだんだん高級化して、うちの米代より高いキャットフードとかを与えていた。病気すると１万円。保険が欲しい～。
彼らも最後は家で看取った。獣といえども死は辛い。

何度も死を経験して、もう飼うのは嫌だと言っていたのに、また次の仔がや

ってきた。「チチ」が亡くなった日に拾われた黒猫。何も知らない友人から「子猫いりませんか」とメールが届いた。写メも届いた。黒猫だ。運命を感じてとうとう我が家の６代目。名前はまだない。

ＡＶＣメモ

どこへ仕舞うか

竹田幸男

「ここに置いたはずのものがない」「あの書類はどこへ行った」「めがねが見当たらん」「財布がない」はては「嫁が盗んだ」「あのヘルパーが怪しい」という成り行きは高齢化の悲しい行き着く先であります。

そこまで行かなくても、我々日常のパソコン作業に戻って考えましょう。一生懸命作った、あの書類がどこかへ行ってしまった、ということが多発します。また映像編集作業でできたはずの映像が見当たらない、音楽が見当たらないということも頻発します。あるいは「Ｃドライブのパンク」という事態も起こっています。今日はデータの仕舞い方について考えます。

余裕があるはずのパソコンの「Ｃドライブ」が、いつの間にか一杯になった、という経験はありませんか。アプリケーションソフトウエア、たとえばワープロソフトや表計算ソフト、その他諸々のソフトウエアを使って、そこで生成した文章や計算表は、「名前をつけて保存」の場面で、黙っていると「Ｃドライブ」に記憶されるように誘導されます。たとえば「マイドキュメント（私の文書）」のフォルダへ記憶されます。文書や表などはデータ量が少ないので、普通の場合たいした支障は起こりませんが、取り込んだ写真などの画像は「マイピクチュア」、音楽などは「マイミュージック」などへ、どんどん放り込まれます。さらに容量の大きいものが映像データで、これも黙っていれば「マイビデオ」などへと放り込まれます。これらはすべて「Ｃドライブ」の傘下なのです。そうして意識しないうちにＣドライブが満杯になってパンクします。せっかく「Ｄドライブ」があっても外付けのハードディスクを付けても、意識がなければ、そちらの方はガラガラのままです。

映像制作をする方には、外付けのハードディスクの増設をおすすめしています。どのようなものがいいかは、これも長くなるので別稿に譲りますが、その中に「作品の題名」をつけたフォルダーを作ることをおすすめします。テープやメモリーから取り込んだ映像データ、その作品のために必要な静止画像、ＢＧＭの音楽データ、作品編集のためにできる、プロジェクトファイル、タイトルデータ、レンダリングなどでできるテンポラリ（一時）データ、出力データ、

できあがったＤＶＤイメージ、ＢＤイメージ等々、これらすべてをこのフォルダーに放り込むように意識的に（主体的に）誘導します。何か作業をするとき、その結果がどこへ行くか、「名前をつけて保存」の時に現れる記録場所に注目して、それを修正して「作品の題名」のついたフォルダーに書き換えます。「作品の名前のついたフォルダー」の中に、さらに内容別に分類するフォルダーをつければ申し分ありませんが、これはお好みでやってください。

要するに人に言われるままにその場に荷物を放り出す。あるいは自分で片付けること無く、人に片付けを任せてしまう。こういうことをすると、自分が探す場合に見つかりませんよ、片付けはご自分の目で、どこに入れたか、しっかり確認なさい、ということです。

このようにしておけば、作品が完成して、データがいらなくなれば、フォルダーごと「削除」すれば、ゴミファイルを残すことなくハードディスクの容量を回復することができるのです。 ■